

Table with columns for insecticide/dungicide and fungicide, and rows for various agricultural products. Cells contain compatibility symbols like ●, ○, ×, △, -.

(注) 混用に当たっては「混用事例集についての注意事項」と各薬剤のラベルをよく読んで使用する。

※1: バリアード(WG)とICボルドー66D(FL)を混用する場合、必ずバリアード(WG)を最初に所定濃度に希釈してから、ICボルドー66D(FL)を最後に加える。
※2: アリエッティ(水)、同C(水)とフロアブル剤を混用する場合、必ずフロアブル剤を最初に所定濃度に希釈してから、アリエッティ(水)、同C(水)を最後に加える。
※3: アーデント(水)をオーソサイド(水)と混用する場合、開花期までの使用とし、落花期以降は使用しない。

※4: ペフラン(液)と石灰硫黄合剤(液)との混用時、原液どうしでの混合は、沈殿を生じるのでペフラン(液)の希釈液を作り、そのなかにかきまぜながら石灰硫黄合剤を入れる。
※5: ペンレート(水)とダイアジノン(水)とを混用する場合、製品によっては時間の経過とともに凝集物が発生した事例があるので、事前に製造メーカー等に確認する。
※6: ランマン(FL)とアブロード(FL)との混用においては、果粉溶脱の問題になる時期での使用はさける。

ぶどう農薬混用事例(殺虫・殺ダニ剤-殺菌剤) その2

Table with columns for insecticides/acaricides and fungicides, and rows for various fungicide products. Each cell contains a compatibility symbol (●, ○, ×, empty) indicating the result of mixing.

(注)混用に当たっては「混用事例集についての注意事項」と各薬剤のラベルをよく読んで使用する。

※1:バリアード(WG)とICボルドー66D(FL)を混用する場合、必ずバリアード(WG)を最初に所定濃度に希釈してから、ICボルドー66D(FL)を最後に加える。

※2:アリエッティ(水)、同C(水)とフロアブル剤を混用する場合、必ずフロアブル剤を最初に所定濃度に希釈してから、アリエッティ(水)、同C(水)を最後に加える。

※3:アーデント(水)をオーソサイド(水)と混用する場合、開花期までの使用とし、落花期以降は使用しない。

※4:ベフラン(液)と石灰硫黄合剤(液)との混用時、原液どうしでの混合は、沈殿を生じるのでベフラン(液)の希釈液を作り、そのなかにかきまぜながら石灰硫黄合剤を入れる。

※5:ベンレート(水)とダイアジノン(水)とを混用する場合、製品によっては時間の経過とともに凝集物が発生した事例があるので、事前に製造メーカー等に確認する。

※6:ランマン(FL)とアプロード(FL)との混用においては、果粉溶脱の問題になる時期での使用はさける。